

栄光

説教・「神のみ業 が現れるため」	中村謙一教師…1
特集・コロナと 向き合う……	2
説教・ 「共に喜び、歌え」	岸俊彦牧師…6
インマヌエル会 だより……	7
長老のファイル…	7
牧師の書齋から…	8

説教

『神のみ業が現れるため』

ヨハネによる福音書9章1節〜14節

聖学院小学校・幼稚園チャプレン 中村謙一

本日の聖書箇所の中で、イエス

様と弟子たちはエルサレムに来て

いました。そして生まれつき目の

見えない人の近くを通りました。

この目が見えない人は道に座って

物乞いをしていました。弟子たち

はこの人に起こっていることにつ

いてイエス様に尋ねました。「ラ

ビ、この人が生まれつき目が見え

ないのは、だれが罪を犯したから

ですか。本人ですか。それとも、

いう迷信に支配されていました。

弟子たちの質問に対して、イエ

ス様は次のようにお答えになりました。

「本人が罪を犯したからでもな

い。神の業がこの人に現れるため

である。わたしたちは、わたしを

お遣わしになった方の業を、まだ

日のあるうちに行かねばならな

い。だれも働くことのできない夜

が来る。わたしは、世にいる間、

世の光である」。ここではっきり

れ示されました。つまり、この盲

人の人生にも神の業が現される、

見えない者が見えるように変えら

れ、主を信じるようになる、これ

を見よ」と、イエス様は実際に地

面に唾をし、唾で土をこねてその

人の目に塗られたのでした。

迷信的に考え質問する弟子たち

に、イエス様はわざと迷信的な方

法で、つまり泥を目に塗るとい

やり方でこの盲人を癒そうとされ

ました。イエス様は言葉だけで癒

せるのにもかかわらず、この時は

泥を目に塗るといふ作業を伴う癒

し方をされました。しかも注目す

べきはこの癒しの神の業は、イエ

ス様が泥を目に塗る部分と、この

盲人自身が「シロアムの池」に自

分の足で行って自分の手で目を洗

うという行動の部分とで成ってい

た点であります。イエス様は、わ

ざとこの癒しをイエス様とこの盲

人との共同作業にされました。そ

して、目を洗った瞬間この盲人は

目が見えるようになったのでした。

このことは神の業には、私たち

し、私たちが参加できて責任を担

う部分も、神様はイエス様を通し

て備え準備し、その業を完成させ

てくださいます。教会の奉仕の業

がその良い例です。私たちは、ま

さに、限られた時間の中でイエス

様を世の光として、つまり手本と

して、お遣わしになった方、天の

父なる神様の御心を祈りつつ奉仕

としてお捧げしています。

この地上で神の業を進める際、

その手本はイエス様です。神の業

が進む時、その中心にあるのは教

会だからです。私たちは、キリス

トの体である教会の手足となって、

神の業に用いられるために礼拝か

ら世に遣わされます。特に、キリ

ストの教えによる隣人愛の業に私

たちは日々用いられます。この愛

の業の手本がイエス様なのです。

神の御子主イエス・キリストが

全ての人の罪を赦すために十字架

にかかつて死なれ3日目に復活さ

れ、弟子たちに現れ天に登り、神

のみ国の全てを支配されている

からであります。このお方の手本

なしで、天のみ国へ導く神の業は

決して完成しません。イエス様に

向かって、愛の業に励みましょ

う！

コロナと向き合う

コロナ禍となって3年。

5月8日には新型コロナウイルスの扱いが
インフルエンザと同じ5類に引き下げられます。

終息の時期が見えない中、私たちは、
今後どのようにコロナと
向き合っていけばよいでしょうか。



コロナ禍では考えさせられることが多く、生活も大きく変化しました。私自身も礼拝はリモートで参加させていただいており、それを支えてくださっている兄弟姉妹、牧師先生がたに感謝しています。仕事も基本的にリモートワークで、私にとっては、リモートは高齢者の「どこでもドア」です。これはパンデミックが収束しても続けていくことを希望しております。いずれにしても、コロナへの対応は、肺炎で致死率が高い謎の病からインフルエンザ並みの流行病へと変化し、人々の恐怖心は払拭されつつあるかと思えます。

稲葉陽二

心のパンデミックと向き合う

争の正当化が行われ、それを間接的に支持する中国の姿も見え隠れする現状、いわばこの両国における国民間に広がる「心のパンデミック」に恐怖を覚えます。

ブーチンの論理は、欧米列強によるABC D包囲網に対応するためにやむなく中国へ侵略を開始し、満州国を建国した当時の日本の主張と同じです。日本は国際連盟を離脱し大東亜戦争にのめりこみ、さらに米国と開戦します。多くの日本国民の反対にもかかわらず、その声は非国民という罵声にかき消されました。プロテスタント各派は日本基督教団に統一され、従わない諸派は過酷な弾圧を受けました。まさに狂気の沙汰ですが、日本国民はなんと1945年まで10年間にわたりこの軍部による暴挙を許し、アメリカによる原爆投下という悲劇で終了いたしました。当時、日本には核がありませんでしたが、ウクライナ侵略ではロシア側に核があります。ヨハネの黙示録は、ヨハネに注がれた幻を記録したという解釈があるようですが、それでも黙示録の今日的意味を考えずにはおられません。

三年経ちました

友田英津子

年に数回会っていた友達が3人いますが、そのうちの1人とはもう3年間会っていません。恵泉の中学以来の友達で、私達は同じ仕事に就いていたこともあって、お互いにはげまし合ってやってきました。時々電話で長話をし、面と向かつては恥ずかしくて言えないことも言い合ったりしています。別の友達とはたまに食事をすることもありませんが、用心して個室をとっています。

糖尿病と高血圧があるので、定期的に医者通いをしています。あととはほとんど在宅しています。ただ、月に2回のコーラスには参加するように、不思議なところか、不気味な形をした専用のマスクをつけて歌っています。息苦しくて大変です。

仕事をやめて6年になります。70才位で死ぬたらいいなと思っていたのですが、秋にはついに

後期高齢者になってしまいました。

2020年8月には娘が体をこわして一人暮らしをやめ、同居しました。じっくり話し合える貴重な時を過ごすことができ、親としてまだできることがあるのだと実感しました。幸い健康を回復し、2022年には結婚し、仕事を続けながら奥さん業をやっています。11月に結婚式を挙げ、出席してくださった方々に挨拶する機会を得、娘が良い友達に恵まれて成長してきたことを思い、感謝のみです。また、2022年2月には、中野区で一人暮らしをしていた義姉が亡くなり、盛岡で葬式を出しました。コロナのために6月まで式ができませんでした。

個人的にはどうもウサギ年は変化の年のようで、26才、38才、50才、62才と節目の年でした。(2才と14才の時に何があったのかは覚えていませんが。)

今年は何事もなく平安に過ごせるように、礼拝に出席できるようにと願っています。

私ごとをかんじ

馬場 茂

今年のお年玉付き年賀はがき90枚中で当たったのは3枚あった。最近届くのも減ってきたが、ここ10年で2枚以下だった年はない。毎年百枚届いたとして、3枚以上当たる確率は0.58%。でもそれが10年続く確率は0.5%。ただし、大相撲のテレビで勝ち負けを示すランプが、ある瞬間に東西一方だけが勝ちつばなしになった画面を見ることが、たまにある。その程度の確率で特に稀ではない。

翻って新型コロナウイルスを見るに、これまでのところ私は罹っていない。東京で感染者数が1万人/日であるとして、つまり確率0.0001%/日で、千日罹患しない確率は0.37%もある。私が電車に乗るのを止めたことも考えると当然の帰結ともいえる。一方で、満員電車に乗らなければならぬ人や、介護で他人と密に接し

なければならぬ人にとって、伝染る確率ははるかに高いはずだ。

感染症への対策は出エジプト記から黙示録に至るまで随所に書かれている。しかし文字通りの解釈は14世紀のペストを前に役に立たなかったことは証明済みだ。むしろ、ルカの21・9〜19に書かれている「：世界の終わりはすぐには来ない：忍耐によって、：命を勝ち取りなさい。」。

みな様に主の平安が訪れますように。

5類への引き下げとマスクの着用是非が議論されているが、未来のことはわからない。今後のXBB1.5株の感染力や死亡率次第である。しかし、検査方法と医療体制の確立など、政治のやるべきことはあるはずだ。現状、検査すらまだ十分に行われていない。中国を笑えない。

私たちにできることは抗原検査で陽性になったら外出を控えることぐらいだろう。また、「富士」の計算結果を見るまでもなく、昔からマスクの着用は防御には有効ではないが、発生源の抑制には多少有効であるといわれていた。

コロナウイルスと向き合う

仲山亜砂奈

神様のご計画により、世界中でコロナウイルスの大きな影響を受けました。多くの生命が御国で守られていますよう、お祈りします。

日本では緊急事態宣言の発令により行動の制限がありました。休業、休校、不要不急の外出自粛、テレワーク、色々な要請もありました。

各企業でテレワークの導入や時差出勤などの対策を講じました。通勤時間が長い方々、育児・介護と仕事を両立されている方々は自宅での仕事で効率が良くなる面もあります。働き方の多様性と柔軟性は良い変化として挙げられます。

飲食店とタクシー会社が協力してお料理を届けるサービスなど、新たなビジネスが生まれました。住まいの選択肢が増えています。お家時間向けの新しい食品や衣料

も開発されています。

学校ではイベントが工夫して開催されるようになりました。オンライン授業や会議は子どもも大人もコミュニケーションは大変な面もありますが、遠方から参加できるメリットもあります。

経堂北教会では礼拝のライブ配信が開始されました。

お怪我やご病気の方、遠方の方が教会に集えない場合でも、オンライン礼拝に参列できます。ご用事がある方は、別の時間に録画を観ることが出来ます。ライブ配信に携わっている方々、ありがとうございます。

教会に集うこと、会社で仕事すること、学校で学ぶこと、遠方の家族や友人と会うこと、日常生活で色々と変化しています。礼拝の方法、働き方、学び方、連絡やコミュニケーションの取り方、新たな考えと選択肢があります。

出来ないことではなく、どうしたら実現するのか。出来ることを考えていけば楽しいことが増えていきます。

これからも日々祈り、歩んでいきたいと思えます。

変化するものと変化しないもの

河野紘典

3年前、突然の「学校休校宣言」、これは非常にショックな出来事であり、あの日のことは今でも鮮明に記憶しています。そして、教育現場ではあの日を境に新型コロナウイルスに対して、様々な対応が迫られ、様々なことが変化しました。例えば、修学旅行や体育祭・文化祭などの学校行事の中止、部活の大会の中止のように学校生活に華やかにするイベントは無くなるか縮小されました。また、普段の学校生活では、毎朝の検温、黙食、マスクの着用などを課せられ、授業もオンライン授業を実施したりと本当に様々な変化がありました。

そして、今ついに新型コロナウイルスは5類に引き下げられ、卒業式・入学式にマスクをつけなくて良いなど、また3年前前の生活に戻りつつあります。でも、学校現

場は3年前のように戻ることはないでしょう。なぜならば、授業や行事といった形あるものの変化だけでなく、教育的価値観という目に見えないものも変化したからです。例えば、マスクをつけて生活するのは当たり前の日です。学校でも基本的にはマスクを着用させます。しかし、マスクの色については3年前は白が望ましいとされていたのに、今は特にルールはありません。これは色付きのマスクをすることが世間の中で当たり前になったからです。このようにこの3年間で学校だけでなく、私たちの生活における価値観というのは大きく変化してしまつたので、もとに戻ることはないのです。

逆に、変化しなかったもの、より一層大切にされたものがたくさんあります。それらは今後も変化することは無いでしょう。そして、聖書などに記されるイエス様の考えや言動は、いかなる時でも私たちを導いてくださるものだから、今日まで変化せずに大切にされることを再認識して、これからの日々を送りたいと思えます。

コロナと私

村上靖子

此の所、コロナの無聊を慰めようと、友人と歌仙(連句)を捻っています。

2021年4月10日から始め、5月2日迄、長句(五・七・五)と短句(七・七)を交互に、三六句繋いでゆきました。その中で、二年目の戒厳令に梅雨の月へ、

コロナなにとビーチパラソルと、付けました。

昨秋は、入居者20名の老人ホームで、コロナ感染者が4名出ました。約3週間、入院されていました。私たちの食事は、各部屋へ配膳されましたが、日常は、外出禁止、洗濯、駄目。入浴も駄目でした。最近では、都内のコロナ感染者数も、やっと減り、落ち着いて来た兆しがあります。

でも途端に、インフルエンザと同じ扱いとなり、マスクなし、以前通りの生活でO・K、などと言

われても、歳の所為でもあります。が、我々は、もう、すいすいとは動けなくなっています。

更に、街の様変わりも激しく、銀座、渋谷、新宿などをほつつき歩けなくなりました。全てが、御上さん状態です。

そして、コロナが我々に与えた影響の一つに、人々が、菌に衣を着せなくなった感じもして、それはそれで良かったのかなと思います。

また、これだけ地球上に拡がったコロナって、神からの戒めの一つではないかと、時々、薄い胸に手を当てて、「自分の生き方はこれで良いのか?」と、思い煩いながら……時の過ぎゆくまま、やはり、今迄通りに、うがい、手洗い、マスク、混雑する集まりを回避しながら、生きてゆくのですね。さて、皆様は、如何ですか。



コロナと向き合う

青木みぎわ

新型コロナウイルス感染症が流行してから、今年で4年目が始まるうとしていきます。振り返るとあつという間だったと感じますが、多くの価値観の変化と、その中でも変わらない大切なこと、たくさんのごことに気づかされた期間でした。

コロナ発生当初は誰もが経験したことがない不安で包まれていたことを覚えていきます。私は仕事で、ファッションを通してライフスタイル商品を販売していますが、常に変化していくことが求められました。コロナ禍では最低限必要なものが優先され、サステイナブルな意識も同時に高まり、お客様数の減少、事業の縮小、業界内ではたくさんさんのブランドがなくなってきました。私の会社も存続を問われ続けていましたが、どんな状況下でも生活に彩りを加えることで前向きな変化を提案したい、と

自分たちが大切にしていきたい原点到に立ち返る作業をしていきました。いまは少しずつ共感いただけけるお客様が戻りつつあり、彩る楽しさを一緒に考えていける尊さを感じて働いています。

答えがない不安はたくさんありましたが、その分いままでのやり方にとらわれず挑戦しやすかったり、様々な価値観が共存できたり、変化をポジティブにとらえられる環境が増えました。

今年はより本格的な「ウイズコロナ」を歩むと言われています。

大きな変化を越えた今はこれからどんなことが起きようとも、前に進んでいける強さがあったと感じます。コロナ禍では何もみえない不安も知りましたが、何もみえない中でも、必ず前に進むことが出来ることを教えてくれました。「暗闇の中だから光がみえる、苦しいから祈ることが出来る」、神様がどんな時でも与えてくださっていることを実感できました。当たり前な日々がずっと続くことはいらないけれど、でもどんな時も光を信じて、変化を恐れず歩んでいきたいと思っています。

説教

『共に喜び、歌え』

イザヤ書52章7節〜10節
ローマの信徒への手紙10章14節〜21節

岸 俊彦

復活のキリストと出会い、キリストの使徒とされたパウロの課題は、どうしてキリストによる神との和解の福音を同胞のイスラエルは受け容れないのか、ということでした。

パウロはその答えを、神の言葉である聖書にまず求めました。幼い日から学び、心に刻まれた聖書の言葉を、パウロは自らの解釈と言葉で引用します。

「良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか」(10・15、イザヤ52・7)。

紀元前6世紀後半、バビロン捕囚からの解放と祖国帰還を告げる言葉です。「美しい」とは、「時に適っている」という意味です。バビロン捕囚の50年間、沈黙されていた神がイスラエルの訴えを聞いてくださいました(イザヤ51・22)。塵に伏した50年の悔い改めの時を経て、まさに時に適つ

て神の救いが実現しました。イスラエルが悔い改め、目覚める時です。神の救いの時に目覚め、立ち上がる時です。神が共にいてくださいます(52・6)。「見よ、主なる神を。主は力を帯びてきてくださいます」(40・10)。この出来事を知らせる福音のゆえに「共に、喜び歌う」(52・8)のです。

パウロにとつて、「見よ、ここにいる」(イザヤ52・6)と第2イザヤが預言した主は、まことの人となつてこの世界に来てくださったキリストです。十字架の死に至るまで「ガラヤ中を回つて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、また、民衆のありとあらゆる病気や患いをいやされた」キリストです(マタイ4・23)。

このキリストの福音を宣べ伝えるために、神が選び、召し出し、遣わしたのが、パウロをはじめとする使徒たちです。使徒たちの働

きのおかげで、キリストの言葉は私たちの近くにあり、私たちの口、私たちの心にあります(ロマ10・8)。パウロが宣べ伝えているキリストの福音です。「口でイエスは主であると告白し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、救われるのです」(10・9)。ユダヤ人だろうと、異邦人だろうと、「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです(10・13)。

しかし、「主よ、だれがわたしたちから聞いたことを信じましたか」(10・16、イザヤ53・1)。伝道旅行で経験した苦難、迫害、悲惨の中で、パウロが最も苦悩したのは、同胞イスラエルがキリストの福音を信じないことでした。

この預言者の叫びを引用するパウロの叫びは、十字架のキリストの叫びを思い起こさせます。「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」(マルコ15・34)と絶叫されたキリストです。

パウロが引用したイザヤ53・1以下は「苦難の僕の歌」です。パウロは十字架に磔にされ死なれたキリストの姿をこの僕に重ねてい

ます。十字架のキリストの言葉を伝える使徒も、このキリストの苦難を担うのです。

「彼が担ったのはわたしたちの病／彼が負ったのはわたしたちの痛みであつたのに／わたしたちは思っていた／神の手にかかり、打たれたから／彼は苦しんでいるのだ、と」(イザヤ53・4,5)。

このキリストの恵みによってパウロは贖われ、召され、遣わされ、キリストの福音を宣べ伝える使徒とされました。このキリストの恵みのゆえに「わたしたちは、キリストのために／一日中死にさらされ、／屠られる羊のように見られている」(ロマ8・36、詩44・23)のです。「いつもイエスの死を体にまといています」(2コリ4・11)。キリストがその命を私たちのために空っぽになるまで注いでくださったのですから、その恵みに応えるために、キリストの福音を命の限り伝え続ける使命がパウロにはあります。私たちの教会の使命です。キリストの福音が語られ、キリストの福音に聞き従つてこそ信仰が生まれます。神が信じる者を起こしてください。

インマヌエル会だより



教会のホームページには、「インマヌエル会は年配の男性の会」とありますが、女性の参加も随時ありました。共に学び、談笑し合った先輩方を多く天に送ってきました。現在は、メンバー4名です。コロナ禍の3年間も、月1回第4土曜日午後)の会は続けました。読んだ本は、『祈りの精神』、『ハイドルベルク信仰問答』です。

会では、質問、わからない点、批判などを出し合い、「こんな読み方があるのか」と思うのも読書会の面白さです。

昨年11月の会で、開催日時を変えることにしました。従来の日時に加えて、第5日曜日礼拝後に、開催することにしました。より多くの方の参加を考慮することで、

さて、1月からは、カール・バルト著『教義学要綱』天野有、宮田光雄訳(新教出版社、22000円)です。バルトといえは、20世紀最大のプロテスタント神学者で、第2次大戦後、日本のキリス

ト教界にも大きな影響を与えました。スイスの神学者でしたが、ナチの宗教政策に抵抗し、バルメン宣言を起草しました。

この書物はバルトが1946年ボン大学の夏学期で行った26回の講義録で、膨大な教義学著作集のエッセンスで、現代の古典の一つと言われています。名訳がありますが、この度、新訳が出て、より読み易くなりました。

「使徒信条」に基づいて、「父、子、聖霊、教会」についての教理を語ります。はじめに、「信仰は信頼であり、認識であり、告白である」についての講義があります。

時を同じくして、新潟市の東中通教会でも、元北教会員の片岡賢蔵伝道師により祈祷会でこの本の解説が始められたと伺い、嬉しいです(賀状でのお知らせより)。

学生時代に、この本を「積んどく」していました私なので、この度は力を入れて取り組む意気です。

次回は第5聖日(4月30日)礼拝後から1時まで開催されます。どなたでも、礼拝後に、ふらっとナザレにお立ち寄りください。お待ちしております。(松田昭彦)

長老のファイル



梅の花が満開を迎えつつあります。春風のように温かな姉妹を主の御元に見送りました。「また会う日まで」と素直に思えるキリスト教の葬儀は何とすごいのだろうと改めて思いました。主の国での再会まで、私たちはしっかりと地上で頑張りたいと思います。

4月に完成予定だった教会墓地の新しい墓誌が早くも完成しました。この先40年分の召天者名を刻むことができます。皆さまご安心ください。

5月には墓誌のお披露目を兼ねて、合葬式を行います。これから先の納骨室スペース確保も重要な課題です。合葬にご協力いただければご遺族の皆さま、お申し出お待ちしております。

さて、3年に渡るコロナ禍ですが、この3月に世の中的には大きく対策の舵がきられるようです。制約の緩和が広がる中ですが、当教会では3月に関しましては現状通り、不織布マスク着用、手指消毒、飲食禁止、礼拝時換気を継続

いたします。随時協議の上、対策に変更がありましたらお伝えしてまいります。

来年度より、当教会では使用聖書が新共同訳聖書から、聖書協会共同訳聖書に切り替わります。心新たに、喜びをもって新しい聖書と向き合いたいと思います。

オルガンの録音機材を購入したことも本年度の大きな出来事です。充実した奏楽者の人材に恵まれている今のうちに、奏楽の録音を少しずつ蓄積していこうというものです。この先、急な葬儀等にご奉仕くださる奏楽者が万が一不在という場合でも、この機材で礼拝を守ることができるよう準備を始める必要があります。

長老会では、月1回の長老会に加え、臨時長老会を行い、来るべき牧師招聘のために協議と学びの時を持っています。日本基督教団の軸となる教憲教規を長老一人ひとりが身に付け、牧師招聘に必要な判断力を養っていきます。御心に従い、がんばります。(石室裕一)

個人消息



牧師の書齋から

小学3年秋から中学1年まで静岡市に住んでいました。そのころの友人が定年となつて静岡に戻り、時々連絡してきます。同級生の消息や当時の店と町並みの変化などを写真添付で知らせてくれます。彼の母親はキリスト者でした。先日は中学1年の担任が亡くなつたと知らせてきました。英語のS先生で80歳の時バプテスト教会で受洗し、葬儀もその教会で行わ

れました。送ってくれた略歴を見ると当時32歳、やる気満々の担任でした。転校してから結婚したとの知らせも別の友人からありました。彼は寺を継いで住職です。コロナが終息したら一緒に先生にお目にかかろうと誘われていました。卒業生ではなかったのですが同期会にも声をかけてくれました。土日はとても静岡まで出かけることはできませんでしたが、先生の夫人はキリスト者で、息子さんは、東京神学大学を卒業して、名古屋のバプテスト教会の牧

師となつています。同じ頃卒業したはずの後輩牧師に尋ねると、確かに同級生にいたと返事がありました。静岡とは色々な繋がりがありません。同級生の一人は牧師の娘でした。その従兄が転校先の同級生となりました。彼も牧師の息子でした。高校はそれぞれ別の学校に進学しました。高2のクリスマス、教会のクリスマス会に誘われま

いて、その間青年会で共に活動した仲間から、僕を含めて6人が牧師となりました。同世代であと10年働きたいという元気な者もおりますが、次の人生をそれぞれ考えています。経堂北教会40年の牧師生活で、牧師、教務教師となつた者は、伝道師として共に働いた者も含めて19人になります。この頃つくづく思うことは、自分

掲示板



○受難節第3主日礼拝

3月12日(日) 午前10:15

説教「あなた方はキリストの手紙」

2コリント3:1-6 種房惇子教師

○西南支区総会 3月12日(日) 午後2:00

於 霊南坂教会

○ルデヤ会総会 3月26日(日) 礼拝後

編集後記



▽3月13日からマスクの着用は個人の判断に。

私は今後も外出時は着用するつもりですが、卒業式等、学校で個人の意志に反してマスクの着脱を強いることがないように願っています。

(酒井)

「栄 光」2023年3月号

日本基督教団 経堂北教会

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11

電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038

牧師：岸 俊彦

編集：栄光編集委員会

Email：kyodon@nifty.com

HP：http://kyodokita.life.coocan.jp